

飛騨高山の魅力を 発信するための仕組みの提案

- 奥飛騨ビジターセンターを例として -

文教大学 国際学部 黛ゼミナール

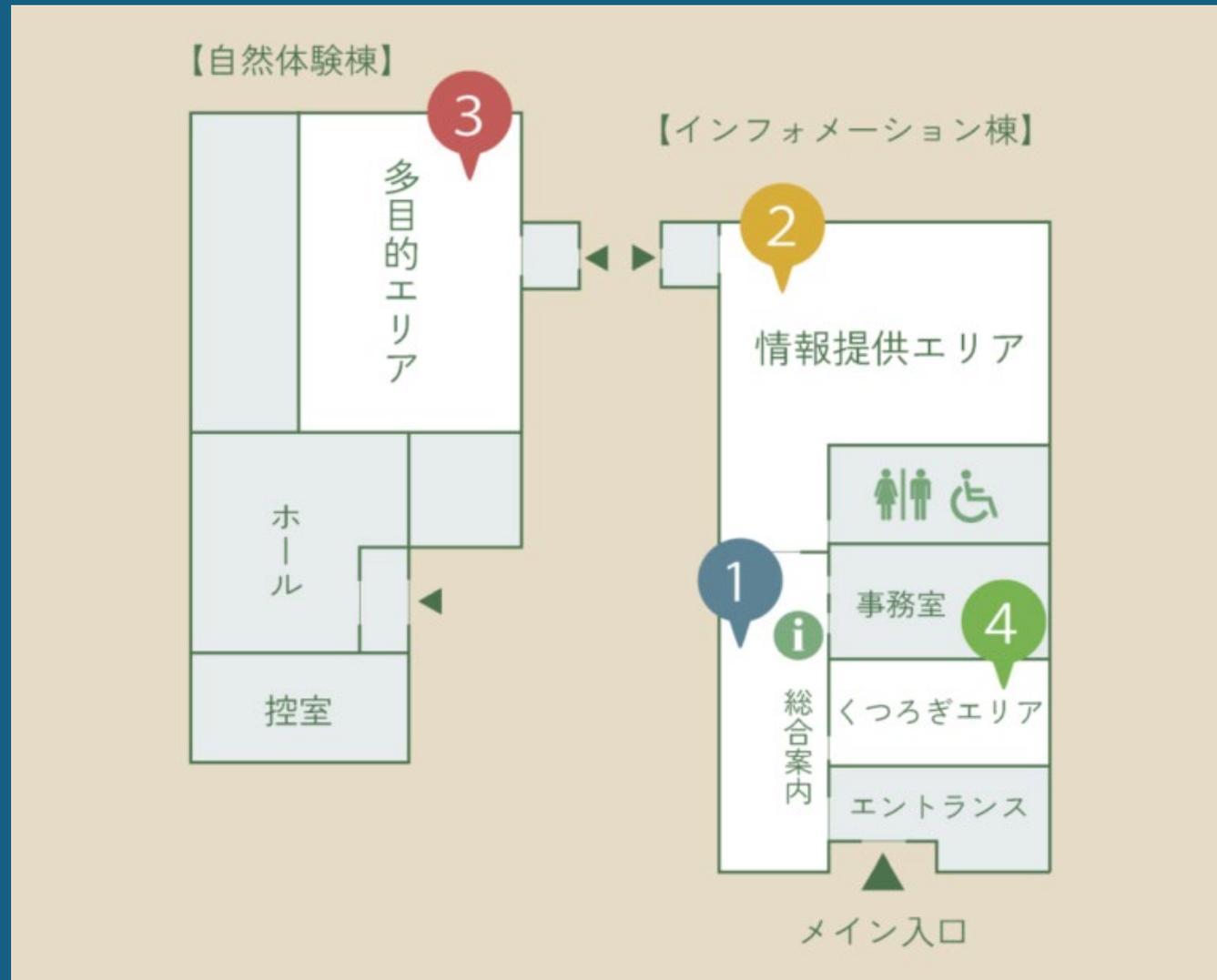
城内倭多郎 三森いずみ 石川夢華

9月11日 奥飛騨ビジター センター

センターの方々に
ご案内いただき、
とても貴重な経験
となりました。



奥飛驒ビジターセンター構内図



1. 奥飛騨ビジターセンターの設立趣旨

- ・奥飛騨ビジターセンターは、自然・観光・アクティビティ・天候・交通等の情報を入手できる。
- ・地域の特徴的な地形や地質、動植物の展示紹介をはじめ、自然観察やものづくり体験プログラムを提供する施設。



旅の出発点の機能を果たす目的がある

➡ **最終目標：若者が集える場所とする**

ターゲット層を大学生とした現状分析

人間関係に疲れ
非日常

大学生による
自然学習・調査場

Natural

Access

Community

バスタ新宿～平湯温泉
7時02分発 6000円～

大学生同士の
新しい出会い



訪問した大学生が、
学び・出会い・くつろげる場所

現地の人ガイドとなってビジターと交流

そんな場所でありたい
このような

用途を目指すことが私たちの提案です。

目次①

飛騨高山の魅力を 発信するための仕組みの提案

【施設利用者へ届きやすい情報提供】

2. センターの現状と課題

3. センターの現状・課題を踏まえた私たちの提案

3.1 施設利用の導線の提案【外装について】

3.2 施設利用の導線の提案【インフォメーションスペース】

施設利用の導線の提案【くつろぎエリア】

施設利用の導線の提案【情報提供エリア】

3.3 自然を楽しく学べるプログラム【活用実例案】

目次②

飛騨高山の魅力を 発信するための仕組みの提案

【より理解を深め滞在を楽しめる仕組み】

4. 施設利用の導線の提案

【高山帯に生息するライチョウや現地の生物使用】

4.1 施設利用の導線の提案 【休憩所の多様な利用形態】

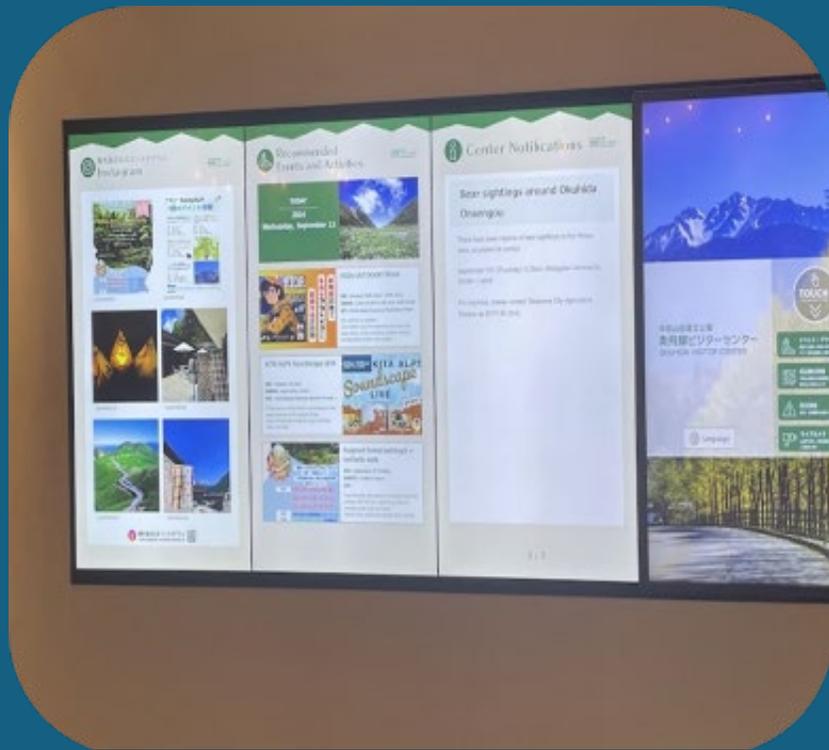
4.2 奥飛騨の生態系を用いたグッズ【活用事例案】

4.3 自然を楽しく学べるプログラム【インタープリテーション】

5. 施設の存在価値を人々に知らせるブランディング

2. センターの現状

〈現状〉



石の展示は専門家監修であり、施設内の設備が充実している。



施設の中には多言語対応のパネルがあり、インバウンド観光客への配慮がされている。

2. センターの課題



1. 外観と内装がとてもシンプルなため、なにをすることができる施設か、わからない。
2. 休憩所として、くつろげるスペースが欲しい。
3. 現地の自然環境を楽しく学べるプログラム等があると良い。

3. センターの現状・課題を踏まえた私たちの提案 【施設利用者へ届きやすい情報提供】

3.1 施設利用に目印導線を追加

施設の外観について

- 看板の文字はあるが、
どういった施設かわからない。
- ↓
- 奥飛騨の自然の魅力について
発信していく施設であるならば
絶滅危惧種であるライチョウをはじめ、
自然の象徴となるモニュメントのような
目印となるものを設置する



ライチョウ

3. センターの現状・課題を踏まえた私たちの提案

【施設利用者へ届きやすい情報提供】

3.2 インフォメーションスペースに情報追加を



木の香りと良質な印象



山の地形図の展示、山岳グッズを販売する。奥飛驒に生息している動植物が記載された図鑑を並べる。

<https://www.yamakei-online.com/yamaya/detail.php?id=1521>

3. センターの現状・課題を踏まえた私たちの提案 【施設利用者へ届きやすい情報提供】

3.2 休憩所（くつろぎエリア）に付加価値を

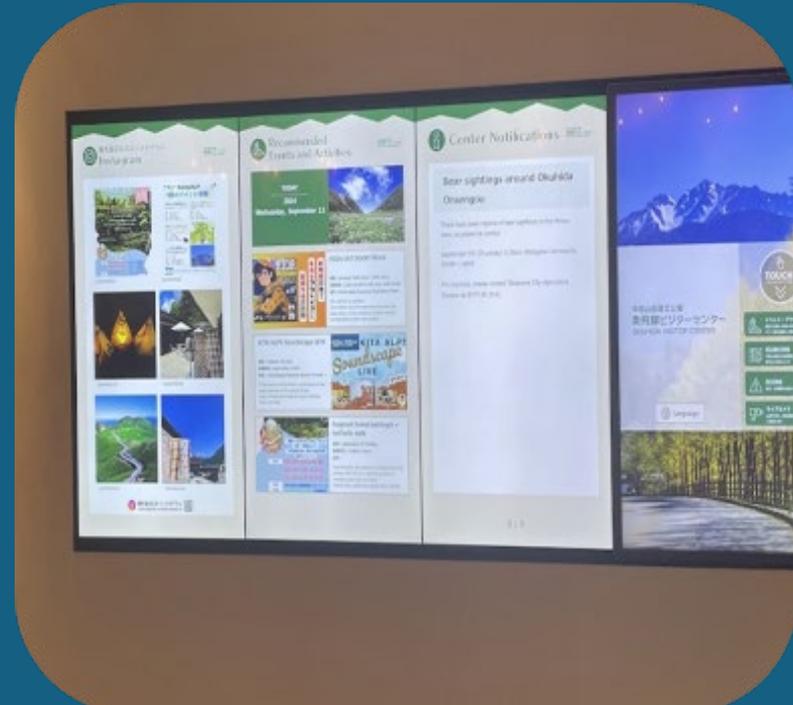
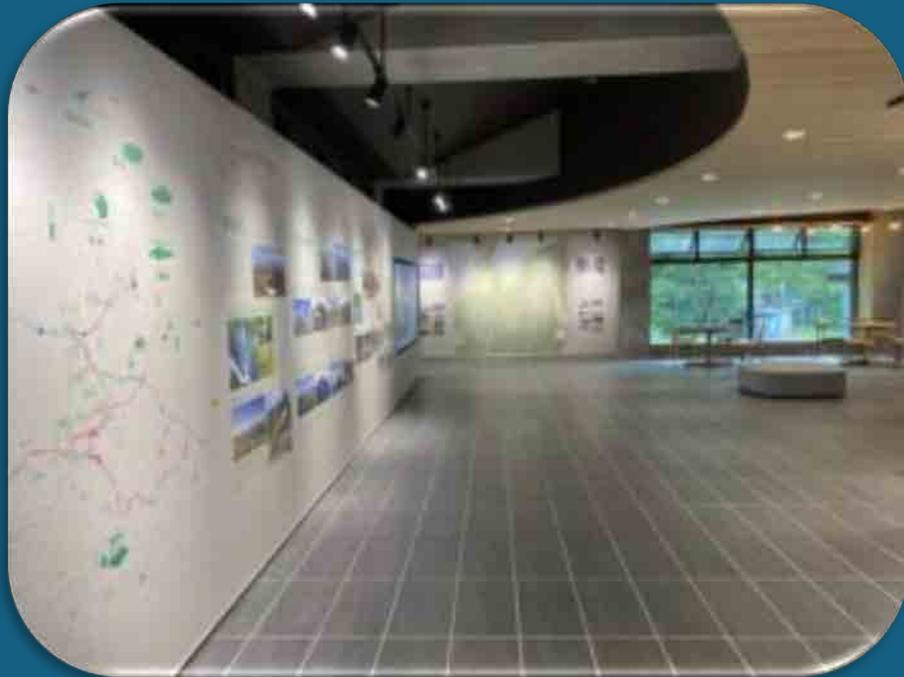


落ち着いた空間でリラックスできる。
座って休憩することはできるが
ゆっくりとくつろぐためにより快適な空間に。

可能であればコーヒーやスイーツを提供し、
カフェのように利用する
そこに奥飛驒ならではの付加価値を付ける
(ライチョウクッキー等)

3. センターの現状・課題を踏まえた私たちの提案 【施設利用者へ届きやすい情報提供】

3.2 情報提供エリアの空間に情報を追加



展示スペースも広々とした空間を最大限活用する。
季節によって姿を変える展示をすることで春夏秋冬の
奥飛驒の魅力がより利用者に伝わる。

3. センターの現状・課題を踏まえた私たちの提案

【施設利用者へ届きやすい情報提供】

3.3 自然を身近に楽しく学べる展示の追加



みたけ彩

MITAKE IRO



解説員のおススメ
御岳山の花 BEST 30
御岳ビジターセンター

 <p>アセビ 花の時期：3月中旬～4月中旬 スズランを思わせる清楚な花。輪廓な花には「トゲ」香、「ドク」がある。油断めさる。馬も酔うらしい。</p>	 <p>ハナネコノメ 花の時期：3月下旬～4月中旬 早春の一番人気！凍氷残るロックガーデン、水際を沿った岩の上で寄り添って咲く。春の訪れを紅白で告げよう。</p>	 <p>キフシ 花の時期：3月下旬～4月中旬 虫薬は、果実がフシと呼ばれる染料になる。だから「木フシ」？ぶら下がる種子がフシに似て、花が黄色なので「黄藤」？どっち？</p>	 <p>ヤマノコヤナギ 花の時期：3月下旬～4月上旬 別名「ハッコヤナギ」。パッコとは「お爺さん」。早春のそよ風にゆれるフサフサが白髪に見える？</p>
 <p>アズマイチゲ 花の時期：4月上旬～4月中旬 一本の茎に一つの花を咲かせるので「一華（イチゲ）」集落の隅だまりで光をうけて、花を咲かせます。</p>	 <p>カタクリ 花の時期：4月上旬～4月下旬 スプリング・エフェメラル（春の妖精）。そっと花の中を覗くと、花びらにもう一つの花が咲いている。</p>	 <p>ハシリドコロ 花の時期：4月上旬～4月下旬 春を告げる可愛いベルの花が咲く。だけど用心！猛毒を蓄えたこの植物、食べると幻覚症状で走り出す。</p>	 <p>コチャルメルソウ 花の時期：4月上旬～4月下旬 足元に咲いていても気づかない。そんな小さな花だけど、形のユニークさは御岳山で1番。魚の骨？お化け？</p>
 <p>エイザンスミレ 花の時期：4月上旬～4月下旬 この葉っぱ、「これがスミレ？」と思いませんか？ふくよかな花は、緑のがに香ることも。</p>	 <p>ヤマノコヤナギ 木々生えそわないうちに花を咲かせます。とても小さい植物ですが、山道で出会うとホッとさせる花です。</p>	 <p>ハシリドコロ 人見知り？なのかな？下向きに咲くよ。6月には美味しいイチゴが！</p>	 <p>コチャルメルソウ 嫌な香りが。フサハシロコヤナギはそれがたまらない？</p>

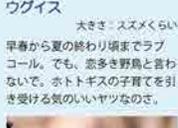
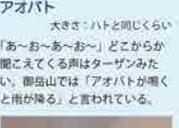
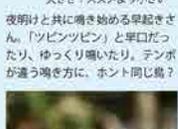
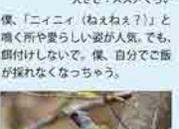
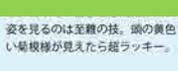
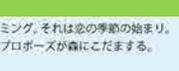


みたけ彩

MITAKE IRO



1年中見られる鳥
御岳ビジターセンター

 <p>ミソサザイ 大きさ：スズメより小さい ロックガーデンで、ソプラノの長いさえずりが聞こえたら、岩の上を探してみよう。小さな体だけれど、声の大きさは誰にも負けないよ。</p>	 <p>キセキレイ 大きさ：スズメより少し大きい 行きつけはロックガーデンせせらぎ草。本日のメニューはカゲロウ、カワゲラ、ヘビトンボ。御岳山の集落の中でも見かけるよ。</p>
 <p>ウグイス 大きさ：スズメくらい 早春から夏の終わり頃までラブコール。でも、意多き野鳥と言わないで。ホトギスの子育てを引継ぎたいの、いやツなす。</p>	 <p>アオバト 大きさ：ハトと同じくらい 「あーおーあーおー」どこからか聞こえてくる声はターザンみたい。御岳山では「アオバトが鳴くと雨が降る」と言われている。</p>
 <p>ホオジロ 大きさ：スズメくらい 春の雫を浴びて木のてっぺんで歌い、夏から秋も穏やかな日には浮かれたようにさえずる。いつも仲間と一緒に暮らしているよ。</p>	 <p>カゲス 大きさ：ハトくらい 厳しい冬を前に、ドングリをせせと地中に埋める働き者。ところがドングリどこに埋めたかな？このうっかり者が森を育んでいる。</p>
 <p>ヒガラ 大きさ：スズメより小さい 夜明けと共に鳴き始める早起きさん。「ツピンツピン」と早口だった。ゆっくり鳴いたり、トンボが追う鳴き方に、ホント同じ鳥？</p>	 <p>ヤマガラ 大きさ：スズメくらい 僕、「ニエニエ（ねえねえ？）」と鳴く所や愛らしい姿が人気。でも、餌付けしないで。僕、自分でご飯が採れなくなっちゃう。</p>
 <p>エナガ 大きさ：スズメより小さい エサを求めてせわしく動く。そして枝にぶら下がっては曲芸を披露。まるで長い尾を見せつけるかのように。</p>	 <p>ゴジュウカラ 大きさ：スズメくらい くちばしから流れる黒いラインが流線形の身体に映える。忍者みたいに木を上から下へツツツツと、飛び回る。</p>
 <p>ガビチョウ 大きさ：ハトより小さい マシマジャケットで森の赤と名の付く名の由</p>	 <p>ガビチョウ 本郷は中国。ただいま日本にステイ中（帰国未定）。ものまね芸人顔負けのさえずりをするだけに、調子にのるとちょっとうるさい！</p>

【活用実例案】 参考東京都御岳ビジターセンター

訪れた利用者が
奥飛騨の自然学習の
提供の場とする

常時展示と季節展示の
どちらも行うことにより
更に学びを深める
機会とする

4. 施設利用の導線の提案

【より理解を深め滞在を楽しめる仕組み】



4.1 施設利用の導線づくり

〈方法〉 高山帯に生息するライチョウや現地の生物使用

《具体例》

- ・化粧室や休憩所の案内標識
- ・バスターミナルの駐車場から一目で奥飛驒ビジターセンターを認識できる
ブランドロゴの製作と販売



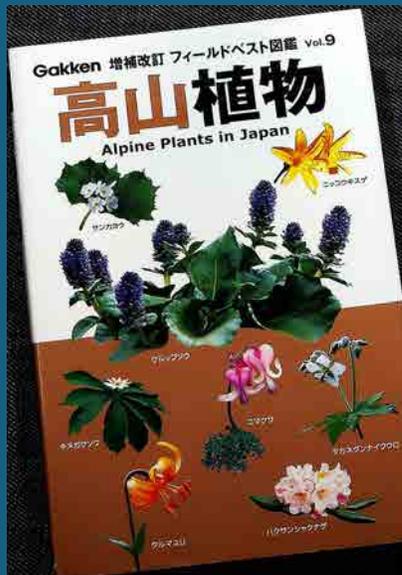
4. 施設利用の導線の提案

【より理解を深め滞在を楽しめる仕組み】

4.2 休憩所の多様な利用形態



- ・ 本格ドリップコーヒーの提供設備
- ・ 簡単な環境教育クラフトキットの販売
- ・ 奥飛騨の自然に関する図鑑や書籍
- ・ テレワーク可能なwifi環境の充実



- ・ 大学生が運営補助
- ・ カフェのメニュー作り

コバノミツバツツジ クラフト開発

自然について考え、自然と一体となる時間を
支えられるような環境作りを目指す。



4. 施設利用の導線の提案

【より理解を深め滞在を楽しめる仕組み】

4.3 自然を楽しく学べるプログラムづくり

インタープリターとなり

エンターテインメント性を活かし

楽しさも兼ね備えた自然を学ぶ内容としたガイドツアー



4. 施設利用の導線の提案

【より理解を深め滞在を楽しめる仕組み】

4.3 自然を楽しく学べるプログラムづくり

飛騨高山を愛する地元の人々がガイドの役割を担うことができるよう
大学生によるガイド講習によってガイド技術を共有する

■ 国立公園のビジターセンター



アメリカ国立公園局

National Park Service (NPS)



<https://www.nps.gov>



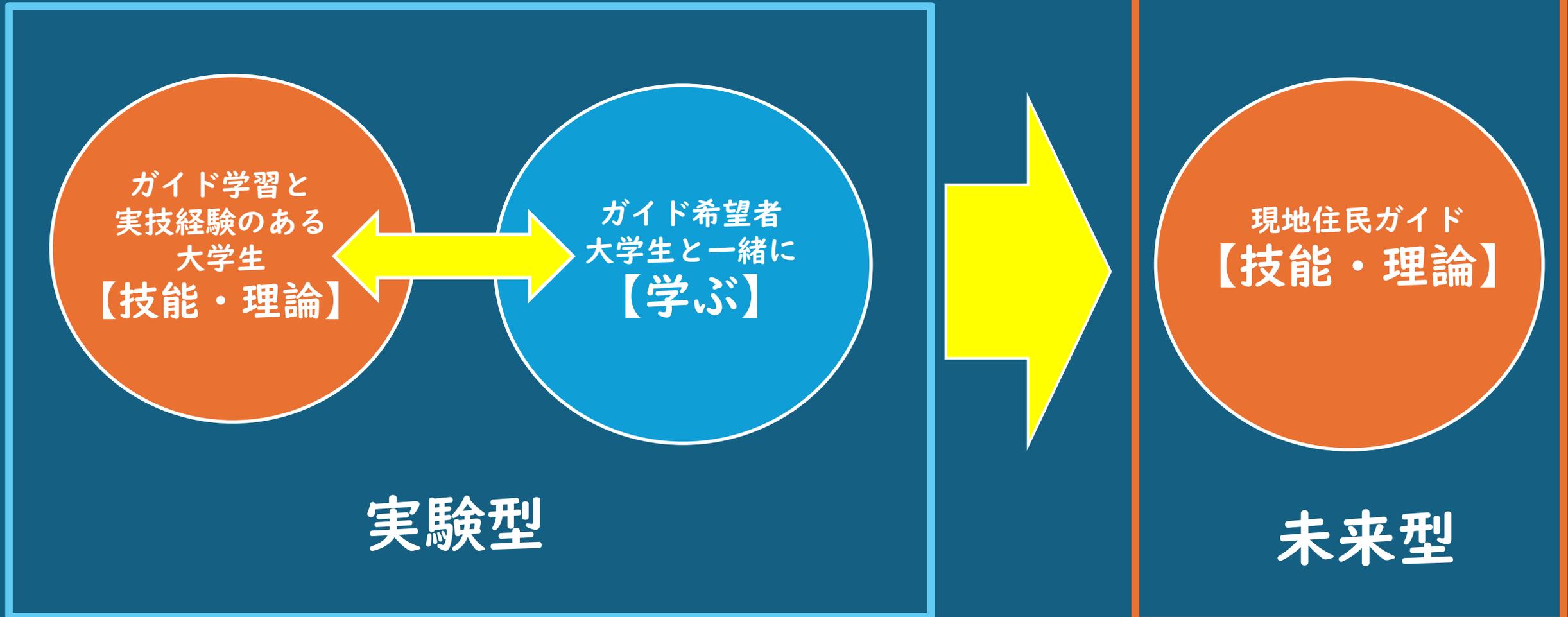
紋章

- 「セコイアの大木」→植物の価値
- 「アメリカバイソン」→野生動物の価値
- 「山と川」→景観とレクリエーションの価値
- 「矢じり」→歴史的+考古学的価値

4. 施設利用の導線の提案

【より理解を深め滞在を楽しめる仕組み】

4.3 自然を楽しく学べるプログラム インタープリター育成方式



5. 施設の存在価値を示すブランディング

- ターゲット戦略
大学生が学び・出会い・活躍できる場所
- 訪問者が新鮮な情報を入手し、自然を知りながら、
コーヒーが飲めるくつろげる場所
- 豊かな技術を有したガイドのいる
インタープリテーションが実践される場所
- 情報が親しみやすく・新鮮で・わかりやすい



ビジターセンターの
ロゴマークも提案！

最後に

奥飛騨ビジターセンターは
従来の解説・展示に留まらず
大学生が奥飛騨という場所で
現地の人々と出会い

奥飛騨を**第二の故郷**へ